広報みと
令和5年7月1日号
第1553号

水戸の城さんぽ

問合せ／歴史文化財課（☎306・8132）

今回は城の「育ち方」を紹介するでござる！

其の四

田谷白石台城（たやしらいしだい）～成長する城～

▲発掘された田谷白石台城
（写真提供：茨城県教育財団）

茨城県教育財団が発掘（遺跡名は白石遺跡）。正方形に巡る堀がくっきりと検出されました。現在は、県中央水道事務所（水戸浄水場）となり遺構は現存していませんが、入口付近に国田歴史学習会が設置した説明看板（白石城跡）が立っています。

城は築城されてから、何十年もそのままということはほぼありません。常に改修を繰返し、成長していきます。つまり、現在、目にすることができる縄張（なわばり）（遺構）は、長い年月をかけて育ってきた城の最終形態なのです。では、築城当時の姿はというと、それを解明するのはとても難しいとされています。

田谷白石台城（田谷町）は、そんな城の育ち方という難題が解明された、市内唯一の事例です。

田谷白石台城は、佐竹氏一族の白石氏の居城であると伝わる平城です。実態は長らく不明でしたが、城跡に浄水場を建設することがきっかけになり、平成2～3年に発掘調査が行われました。調査範囲は城まるごと。城の全面発掘は、現在でもなかなか例がありません。

発掘調査の結果、4時期の城の変遷（左図の①～④）が明らかになりました。鎌倉時代に誕生した田谷白石台城は、深さわずか20㎝と、簡単にまたげる溝に囲まれた、80ｍ四方の規模（①）でした。農村開発のための館であったと推定されています。

ところがその後、様相が一変します。室町時代には110ｍ四方（③）に、最終段階の戦国時代には165ｍ四方（④）にまで急速に成長していくのです。容易に城内に入れないよう、堀も深さ3ｍ、幅7ｍと、大規模化するとともに、内側には高さ1ｍ超の土塁が巡らされました。築城時はのびやかな「館」だったのが、最終段階では戦闘を目的とした、ものものしい「城」に変化していったことが判明したのです。

戦国時代の水戸では、佐竹氏と江戸氏が対立している状況でした。館から城への変化は、こうした軍事対立を反映したものと考えられています。田谷白石台城は現存していませんが、城の成長過程を実証した、貴重な学術的成果として全国的に知られています。

歴史文化財課　関口慶久

▼田谷白石台城の変遷（茨城県教育財団『白石遺跡』より）
※縮尺・方位は同一。

住所／水戸市田谷町

【発行】水戸市　☎029・224・1111（代表）
〒310～8610　水戸市中央1～4～1
ホームページ／https://www.city.mito.lg.jp
【編集】みとの魅力発信課　☎029・232・9107
FAX 029・224・5188　✉kouhou@city.mito.lg.jp